

令和3年1月13日

生駒市長

小紫 雅史 様

生駒市アマチュア無線非常通信協力会

会長 杉江 久男

はじめに

生駒市アマチュア無線非常通信協力会(IAE)は、我々の住む生駒市に若し大災害が発生した場合に、アマチュア無線の電波を生かして、お役に立つことが出来れば、と発足しました。

「アマチュア無線」は、「防災行政無線」とは異なり専用チャンネルを持たない自由度があります。また無線局が生駒市内の広範囲に存在するため、面としての情報収集が可能です。

こうした利点を生かして、生駒市の「防災ネットワーク」の一助が担えればとの共通理念で集まった、ボランティア団体です。

しかしながら、活動する会員がアマチュアの業務外で、唯一許されている非常通信業務に参加する、という意義を認識しつつも、災害発生時には先ずわが身・わが家族の安全を第一にして考えざるを得ない、ことのご理解を、お願い致します。

今回初めて非常通信訓練の場をご提供いただき、アマチュア業務とは全く異なる非常通信業務の一端を経験させて頂きましたことは、我々にとって大きな経験となりました。

コロナへの対応にご多忙であるにも、関わらず状況付与票作成、対策本部の仮設、情報分析、司令等、多大なご尽力を頂き感謝しております。

今回の訓練経験により得られた課題などを整理してみましたのでご検討をお願い申し上げます。

生駒市との検討会・意見交換会にあたって

○ 訓練迄の準備

- ① 今回は訓練の概要、IAE との連携訓練実施の考え方、連携イメージ、状況付与計画、訓練の仕組み等の仕様概要をあらかじめ頂いていたので、それを基に将来の災害発生時を想定しながら、「IAE 非常通信実施計画」を作成した。
- ② また状況付与票が発行された場合を想定した具体的な行動や受信した被災状況を記入する「非常通信用紙」の書式などをまとめた「IAE ハンドブック」を作成し、初めての経験である非常通信訓練のイメージ醸成を試みたが、活用においては十分ではなかった。
- ③ また、災対本部より、今回の状況付与票が供与されたあと、その内容解析と、位置情報の把握、各無線局の応答要旨に照らし機能性を確保する観点から、北・中・南の3地区に分ける運用を周知して、本番に備えた。

○ 訓練の経過・状況

- ① 状況付与計画によると訓練開始(地震発生想定時刻)が8:30であった。
この時点でIAEの訓練設定周波数において不法移動局の交信が頻発していることを確認したので規定周波数では安定な情報交換が望めないのではないかと危惧し、IAEメンバー同士が、周波数の変更が必要と、混信の無いチャンネルへの移動が必要と判断した。
そのため、新たなチャンネルの確保と、既定の連絡周波数での受信局へ、周波数変更を連絡しつつ、災対本部に開設するベース局の指示を待った。
- ② 第1状況である、ベース局要員が市役所に到着したのは8:40であった。
まず、4階の災対本部に、ベース局機材を運び込み、すでに本部配置を設定されていた市統括メンバーと合流、ベース局送受信機の設置、屋上での、アンテナのフェンスへの取り付け、アンテナ同軸ケーブルの4階災対本部前に垂下、窓からの引き込み、送受信機への取り付け等の作業が終了し、通信可能となったのは9:25であった。
今回はベース局要員3名で臨み、1人は災対本部での機器の調整に残り、アンテナ設置は、2名で行った。
- ③ 第2状況のベース局開局は、10:00に設定されていたが、機器及びアンテナ設置が順調に進み当初計画の開始時刻より早い、9:25に設置が完了した。
また自宅受信のメンバー局からの、チャンネル移動の連絡を受けベース局もチャンネルの変更を行い待機した。
9:27に第2状況訓練の「GO 指令」が出された為、開局宣言そこそこに、通信ネットワーク確立のためのロールコールを始めた。
だが既定周波数外への、チャンネル移動であるため、自宅待機局に、既定周波数の受信を依

頼し、ベース局の運用周波数の移動を知らない開局メンバーへのチャンネル移動の伝達中継を実施しながらの、ロールコールとなった。

- ④ 第 3 状況の「各局付近の被害状況調査」は、付与票 A に基づいて行い、第 2 状況でのロールコール確認局から自局被災情報の報告を受けた後、改めて周辺状況の報告を受けると言う形になった。
- ⑤ ここでベース局本部の状況は、無線機のオペレーター1人と、筆記係兼統括班への情報伝達員 2 名の構成で動いた。
- ⑥ 第 3 状況の「各局付近の被害状況調査」により得られた情報をもとに、統括班の分析の結果、詳地情報の詳細調査依頼が入った場合、ベース局はその付近の自宅待機局への移動指令を伝達し、指令を受けたメンバー局が現地に移動し、付与票 B に基づく、被害情報の伝達を行った。
- ⑦ 基本的に IAE メンバーは、第 3 状況終了までは各自宅から運用し、第 4 状況に入りベース局の指示により現場調査を行う場合、移動用無線機を持って活動するとしていた。
- ⑧ 生駒市役所と北地区においては矢田山系の伝搬障害により、交信困難の可能性が有ると考え、総合公園体育館周辺に移動して中継する局も用意した。
- ⑨ 第 4 状況の現場移動には、実災害発生時には交通障害により車移動は不可能となる可能性が有るが、今回の訓練では長距離の場合は車で移動し、近距離は徒歩で移動することを基本とした。(自己判断)
- ⑩ 「状況終了」は11:45の予定であり、「第 2 状況」のスタートが約 30 分早く始まったのだが、訓練直前の運用周波数変更の周知不足や通信不慣れ、情報量の多さも加わって、予定ぎりぎりの 11:41 「訓練終了」を宣言することが出来た。

{文責} JA3KF

○ 訓練の仕組み等について

① 状況付与票A【状況付与票(第3状況)】の自宅被害状況／電気・水道・ガス・電話など(インフラ状況)は、現実的には、開局できるようになるまでに確認が出来ているはずの情報であり、また、自宅周辺状況も当然確認出来るものと思われるので、通信ネットワーク経路確認のためのロールコール時に、一度に情報連絡が出来るようマニュアル化しておけば、統括班による(第4状況)の調査依頼が早めることが出来る可能性が予測されます。

② 付与票の作成法について

12月25日に、頂いた付与票から、訓練の全体像の把握を行ないました。

作成の順序が北地区、中地区、南地区の順になっていましたが、IAEとしてもこれに準じた、メンバー分担と、情報報告概要を作り、初めての訓練に戸惑わないようにしました。

北地区は、国道163や、枚方一大和郡山線などの災害時緊急輸送路、避難場所である「高山SC 体育館」の状況調査、鹿ノ台東・ひかりが丘・真弓南付近の火災状況、調査などが有りました。

中地区についても同様、国道168、旧阪奈道路{大阪生駒線・奈良生駒線}、谷田-奈良線等災害時緊急輸送路の状況確認を重要視されていることが解ると共に、他の情報連絡中に統括班から、これらの情報提供を、ベース局に要求された趣旨も理解できました。

また、避難場所である、市民体育館の状況調査と共に、経路である県道 237 号線の道路状況の確認も有りました。

最もメンバーの多い南地区が、壱分駅北の旧 168 号線近鉄踏切付近の近鉄線鉄塔倒壊道路遮断と、生駒高校北側の谷あいでの火災・建物倒壊状況でしたが、付与票に与えられた状況は、現実的には不可能として勝手に変更した扱いが有りましたが、ご容赦下さい。

マッピングには火災が数か所発生しているに関わらず無調査になっているなど、息切れの感が有りました。

訓練である以上、この機会を満遍なく与えて頂くよう、付与票の作成をお願い致します。 爾後の付与票作成の際には、地元民としてのメンバーの協力も可能かと考えられます。

年末、コロナ対応のご多忙な折に付与票作成、本当にお疲れさまでした。

○ 災害時の IAE と生駒市対策本部との連携要領と問題点・改善点

① IAE のメンバーは、災害が生じた場合、生駒市民のために少しでも役に立てれば、という思いで、ボランティア精神に則った活動をしようと考えています。

実際に災害が発生した場合には、自身の周辺状況から抜け出せないことも当然生じます。

今回、災対本部内のベース局設営状況を観察し、特にアンテナ設置に問題を感じています。

アンテナはやはり高く、周辺に障害の無い場所に設置することが必要ですが、地震が発生し余震が続く中、屋上フェンスやベランダでの作業中での危険が見受けられます。

MCA無線はどの様にされているかは分かりませんが、出来れば市役所屋上の適切な場所に設置させて頂き、送受信機に接続するアンテナケーブルも災対本部のベース局設置場所の近くで保管出来る必要があります。

最も望ましいのは、市の職員の一人でも有資格者が居られれば、初動時にいち早くベース局の立ち上げをして貰えることが出来、各自家庭の安全が確認できた IAE メンバーの応援でスムーズに活動出来るようになるのではないかと考えます。

ぜひご検討をお願いします。

○ その他 ・ 今後の予定

- ① 令和 2 年12月 14 日に公布された官報に「免許証を受けた者は、無線設備の操作に関する知識及び技術の向上を図るように努めなければならない」と記載されています、我々 IAE メンバーは日々の活動を通じて自己研鑽に努めるようにしたいと感じています。
- ② また、趣味としてのアマチュア無線と、防災活動との違い心構えとしての訓練も必要と考えます。ベース局派遣メンバーが初めて災対本部に入構し、職員各位のヘルメット姿を見て、改めてこの事の重要性を確認しました。より一層の防災意識の涵養に努めたいと思います。
- ① 今回の訓練の体験を生かし、IAE 内での、訓練やマニュアルの充実等に努めたいと思います。

文責 JA3KF